

慶應義塾大学大学院
2024年度 商学研究科修士課程入試問題

分野別試験 商業学

以下の設問すべてに日本語で解答しなさい。

なお、解答の際は設問番号を（設問3については問の番号も）明示すること。

設問1 ポーターの提示した競争戦略と、リレーションシップマーケティングについて、説明しなさい。

Q1: Explain the competitive strategies presented by Porter and relationship marketing.

設問2 消費者の包括的購買意思決定プロセスの発展の変遷について、説明しなさい。

Q2: Explain the evolution of the consumer's comprehensive purchase decision-making process.

設問3 以下の用語に関する設問すべてを、それぞれ5行以内で説明しなさい。

Q3 Explain all of the following terms in 5 lines or less each.

問3-1 マーケットメイブンとオピニオンリーダーの類似点と相違点

Q3-1 Similarities and differences between market maven and opinion leaders

問3-2 期待不一致理論について

Q3-2 Expectation disconfirmation theory

問3-3 W/R比率

Q3-3 W/R ratio

問3-4 ブランドエクイティ

Q3-4 Brand equity

慶應義塾大学大学院
2024年度 商学研究科修士課程入試問題

分野別試験 経営学

解答用紙1枚を用いて、以下の設問すべてに答えなさい。

設問1

意思決定のゴミ箱モデル (Garbage can model) について、完全合理モデル (Rational model) や限定された合理性モデル (Bounded rationality model) との違いを明確にしながら説明しなさい。

設問2

ダニング (Dunning) のOLIパラダイム (またはOLI理論) (OLI paradigm or OLI theory) を説明しなさい。

慶應義塾大学大学院
2024年度 商学研究科修士課程入試問題

分野別試験 会計学

以下の設問1～設問4から二つを選択して答えなさい（例えば、設問1と設問2、設問1と設問3、など）。
なお、答案の作成に際しては設問の番号を明記し、一つの設問について1枚の答案用紙を使用すること。

設問1 一般に「会計の三公準」として論じられる場合の三つの会計公準（accounting postulates）について、それぞれ8～10行程度で説明しなさい。

設問2 外貨建金銭債権債務（foreign currency receivables and payables）に係る為替予約（forward exchange contracts）の会計処理について、問1、問2をすべて答えなさい。

問1 外貨建金銭債権債務に係る為替予約の振当処理（allocation method for forward exchange contracts）とはどのような方法か、具体的な会計処理に言及しながら説明しなさい。

問2 日本基準において振当処理の採用が容認されている理由について説明しなさい。

設問3 業績管理（performance management）について、問1、問2をすべて答えなさい。

問1 責任会計（responsibility accounting）の考え方について説明しなさい。

問2 投下資本利益率（return on invested capital : ROIC）重視の経営の優位性について説明しなさい。

設問4 原価管理（cost management）について、問1から問3まですべて答えなさい。

問1 標準原価計算（standard costing）に基づく原価管理の限界について説明しなさい。

問2 原価管理における原価企画（target cost management）の優位性について説明しなさい。

問3 原価改善（kaizen costing）の方法（approach）について説明しなさい。

慶應義塾大学大学院
2024年度 商学研究科修士課程入試問題

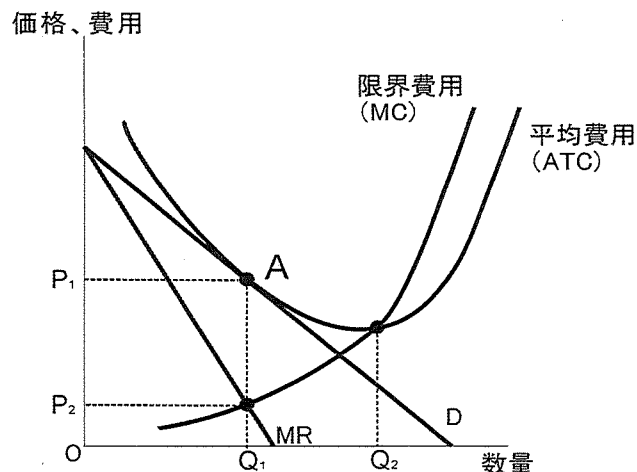
分野別試験 ミクロ経済学

<金融・証券論> <保険論> <交通・公共政策・産業組織論>
<計量経済学> <国際経済学> <産業史・経営史> <産業関係論>

下記の問1～問4のすべてに答えなさい。

問1 右図のように独占的競争（monopolistic competition）にある設備を使って生産する産業の長期均衡が成立しているとき、(1) から (3) に答えなさい。

- (1) 独占的競争市場の構造として考えられる特色を2つあげなさい。
- (2) この図のなかで、A点で生じていることを説明しなさい。
- (3) このとき、過剰生産能力を抱えていると言われるのはなぜですか。図の記号を使って説明しなさい。



問2 公共財（public goods）の最適供給（optimal supply）を仮想世界で考えてみよう。A、B、Cの3人の消費者がいて、以下のような公共財に対する真の限界便益を申告している（ここで X は公共財の量、P は限界便益（marginal benefit）を示す）。以下の (1) から (4) に答えなさい。

$$A: P_A = 180 - 3X$$

$$B: P_B = 100 - 2X$$

$$C: P_C = 80 - X$$

- (1) 公共財に対する社会的限界便益を示す関数（式）を求めなさい。ただし、 $0 \leq X \leq 50$ とする。
- (2) 公共財の限界費用（marginal cost）が $MC = 6X + 60$ で与えられた時、社会的限界便益を求めなさい。
- (3) (2) のもとで公共財の追加的な1単位の供給にA、B、Cがつける個人の限界便益を求めなさい。
- (4) もし、Cが偽りの限界便益である $P = 0$ を申告したら、仮想世界でどのような問題が生じるか。仮想世界で生じることを、市場において公共財の最適供給が難しい理由と関係づけて簡潔に説明しなさい。

問3 以下の(1)、(2)の(ア)～(エ)にあてはまる最も適当な数字を記入しなさい。また、(3)の問いに答えなさい。

(1) ある個人の効用関数 (utility function) が $U = X^{0.2}Y^{0.8}$ で表されている。U は効用水準、X は X 財の消費量、Y は Y 財の消費量を示している。この個人は所得の全てを X と Y に費やす。X 財の価格は 1、Y 財の価格が 2、所得 (income) が 30 である。この個人が予算制約の下で効用最大化する場合、X 財の消費量は であり、Y 財の消費量は である。

(2) ある市場における企業が資本 (capital) と労働 (labor) を利用して生産している。この企業の生産関数 (production function) が以下の式で与えられるとする。

$$Q = 2K^{0.5}L^{0.5}$$

ただし、Q は生産量、K は資本投入量、L は労働投入量を示している。また、資本と労働の要素価格は、資本 1 単位の価格が 16、労働 1 単位の価格が 1 で与えられている。この企業が生産量を 24 に固定し、この生産量を実現する条件の下で費用最小化を行うとき、企業の選択する資本量は であり、労働量は である。

(3) サunkコスト (sunk cost ; 埋没費用) とは経済学的にどのような意味であるか。簡潔に述べなさい。

問4 同じ財を生産する企業1と企業2から構成される複占 (duopoly) 市場を想定する。この財の市場の需要関数 (demand function) が $D = 14 - 0.5P$ であり、企業の総費用関数 (total cost function) は、

$$C_1 = 4Q_1$$

$$C_2 = 4Q_2$$

で示されるとする。但し、D は需要量、P は価格、 C_1 は企業1の総費用、 C_2 は企業2の総費用、 Q_1 は企業1の生産量、 Q_2 は企業2の生産量を示す。このとき、以下の(1)の(オ)～(ケ)にあてはまる最も適当な数字を答えなさい。また、(2)の問いに答えなさい。

(1) 企業1と企業2がクールノー競争 (Cournot competition) を行う。クールノー均衡における企業1の生産量は で、企業2の生産量は であり、財の価格は となる。この時、企業1と企業2の利潤 (profit) の合計は となり、消費者余剰 (consumer surplus) は となる。

(2) ハーフィンダール=ハーシュマン指数 (Herfindahl-Hirschman Index) とは、どのような指標か。簡潔に説明しなさい。